

✧ 海外ニュース ✧

ドイツ 2018年5月11日 Verkehrs Rundschau

■ ヘッセン州は、アウトバーンでの路肩の開放回数を増やす予定である

HESSEN WILL ÖFTER SEITENSTREIFEN AUF AUTOBAHNEN FREIGEBEN

ライン＝マイン地方は、現在、数千人もの通勤者による渋滞に頭を痛めている。当地方の最高値は、連邦平均値の4倍に上る。ヘッセン州のアウトバーンにおいて渋滞を回避するため、路肩の開放頻度を増やす予定である。これは、金曜日にヴィースバーデンにおいて、交通大臣である Tarek Al-Wazir 氏（緑の党）が明らかにしたものである。完全に渋滞のないヘッセン州は不可能である。それには州内におけるアウトバーン上の交通量が多すぎるといえる。しかしスムーズな流れの交通のためには、現場管理から、事故現場の迅速な片づけ、さらに一時的な路肩の開放にいたるまで、複数の調整が必要になるだろう。

アメリカ 2018年5月14日 The Hill

■ 連邦道路信託基金はガス欠寸前状態であり、時間的余裕はない

Highway Trust Fund is on fumes and time is running out

インフラ週を迎え、陥没道路、水道管の破裂および橋梁の欠陥が、議会に行動を起こさせる動機付けにならない場合でも悲惨なニュースは他にもある。米国は、議員、特に財政緊縮派に警報を鳴らすべく、ハイウェイのきびしい資金調達に再度突き進みつつある。米国は何十年も、国民がガソリンスタンドで支払う連邦燃料税を主な資金源とする連邦道路信託基金（HTF）に、国内の道路や橋梁の改修および保守作業を依存してきた。この資金調達メカニズムは何十年にもわたり、国内の道路および橋梁に対する資金調達や維持管理を行う最も効率的かつ有効な方法として、両党の支持を享受してきた。しかし、連邦燃料税は1993年から横ばいであり、HTFは需要に追いつくことができないためガス欠寸前である。推計によれば米国は、高速道路、公共旅客輸送および安全への投資を減少させないために、現在予測される利用者通行料の収益に加え、今後年間200億ドルが必要になるという。2020年までに措置が講じられない場合は、同信託基金は一文無しになるだろう。

アメリカ 2018年5月15日 ITS digest

■ 課金事業者は、今後出現するコネクテッドカーと自動運転車の技術に向けて準備を整えなければならない

Toll Agencies Must Prepare for Upcoming Connected and Autonomous Technology

コネクテッドカーと自動運転車の技術は、明らかに目と鼻の先にあり、これは米国の交通ネットワークに顕著な影響を与えるものになる。新たな開発は、私たちの認識より早くモビリティに広範な変化をもたらし、安全向上の一助となり、都市部のレイアウトを改変するものと期待される。米国政府はこの技術を綿密に監視しており、これに対応する法案を作成しつつある。実際のところ、下院は最近になって下院第3388号議案、自動運転法を可決した。これは「自動運転車両の試験および展開を奨励することにより、設計、製造および性能に関し、高度な自動運転車両の安全性確保について連邦政府の役割を近代化する」ものである。国家道路交通安全局（NHTSA）も、新規の全車両に対し、車車間通信能力を2年以内に装備するよう義務付ける方向に動く意向である。この連邦の措置は、出現しつつあるモビリティのテクノロジーに備え、マルチモーダルな交通を整備するうえで極めて重要であることを意味する。

アメリカ 2018年5月17日 The Columbus Dispatch (Ohio) (tiered subscription model)

■ Smart Columbus, 交通問題を解決する技術システムを発表

Smart Columbus releases technical system to solve transportation problems

特大トラック用のフランクリン郡内すべての桁下空間が低い橋梁を表示するアプリ、最寄りの利用可能なフー

ドバンク（困窮者向けに食糧配給や援助を行う NPO 団体）を表示するアプリ，あるいは徘徊老人の居場所を特定する位置情報や公共交通機関ルートを調べるアプリ，が実用化されるかもしれない。連邦スマートシティ助成金に関して，都市の活動を監督する産官学パートナーシップ Smart Columbus は木曜日に，市の各種交通関連問題への対処を目指したコンピューター運用システムの初期バージョンを発表した。“Smart Columbus Operating System” という名称のこのシステムについては，smartcolumbusos.com にて閲覧可能であり，市全域の情報源から収集したデータを総合し，一般市民や官民ソフトウェア・デベロッパの利用に供する。

ドイツ 2018年5月17日 Verkehrs Rundschau

■ 欧州委員会は，トラックに関する二酸化炭素制限値を提案する

EU-KOMMISSION SCHLÄGT CO₂-GRENZWERTE FÜR LKW VOR

ヨーロッパにおける二酸化炭素排出は削減する必要がある。これは，パリ協定により決定された。この目的を達成するため欧州委員会は，トラックおよびバスによる二酸化炭素排出に関する要求を明らかにした。ヨーロッパ委員会は木曜日に，重量のある商用車両に対して二酸化炭素制限値に関する提案を行った。2025年には新しいトラックの二酸化炭素の平均排出量は2019年と比較し，15%削減されることになるだろう。また欧州委員会は，2030年に関する基準値として，2019年と比較し少なくとも30%減少することを提案している。第2段階として，2022年に行われる気候目標の検証にしたがい，こうした制限値の適用範囲は，小型トラック，バスおよびトレーラーといった他の種類の重量車両にも適用される見込みである。

ドイツ 2018年5月17日 Verkehrs Rundschau

■ ブランデンブルク州では，多くのトラックを警察が検査している

POLIZEI IN BRANDENBURG KONTROLLIERT DUTZENDE LKW

ブランデンブルクでは，6回に1回の事故がトラックにより引き起こされている。検査を強化することにより，警察はこの状況を打破したいと考えている。トラックおよびバスの検査を強化するためブランデンブルク州の警察は，多くの車両をチェックしている。木曜日の正午までに104台の車両が検査されたと，ブランデンブルク警察本部が明らかにした。このうち50台はドイツのトラックであり，54台は国外からの車両であった。警察は67回に及ぶ警告を行わなければならなかった。

アメリカ 2018年5月18日 Construction Dive

■ インフラストラクチャー・ウィークの「建設の時」キャンペーンに賛否両論

Mixed reactions to Infrastructure Week's 'time to build' campaign

アメリカ土木学会は，2017年インフラ通信簿で米国インフラを「D+」と評価した。米国の「欠陥のある／危険な」道路，橋梁およびその他の構造物について，2025年までに4兆5,900億ドルが必要と推定している。この評価結果から，5月14～21日に開かれたインフラストラクチャー・ウィーク年会の主要メッセージは，米国全土でインフラ改良が喫緊の課題と強調していることも驚くに当たらない「アメリカ国民は待っても，未来は待ってくれない。# Time To Build（建設の時）だ」。しかし，このNPO法人「インフラストラクチャー・ウィーク」の行動喚起——米国のインフラ課題に関する超党派的対話の推進を力説——に対して，多方面のステークホルダーや観測筋の反応はこもごもである。産業界のリーダーの立ち位置のバラツキを如実に示している。

アメリカ 2018年5月21日 The Kansas City Star (Mo.) (tiered subscription model)

■ 道路に Wi-Fi ? カンサスシティの技術系新興企業，Wi-Fi 組み込み舗装で安全性と楽しみを両立

Wi-Fi in the road? Kansas City tech start-up is wiring pavement for safety — and fun

未来の交通として自動運転車が脚光を浴びてきたが，カンサスシティの技術系新興企業は道路そのものに着目している。Integrated Roadways 社が開発を進めている「スマート舗装」技術は，道路安全性の向上に貢献す

るだけでなく、車をはじめとする他の未来にむけたモビリティサービス向け Wi-Fi プラットフォームとしての有用性も併せ持つ。この道路システムでは、高解像度の光ファイバーセンサーや他の技術を使い、リアルタイムで車両の位置を検出することや道路路面の状態を把握することができる。例えば事故が発生した場合は、このシステムが緊急対応者へ自動的に知らせることができるだろう。

ドイツ 2018年5月22日 Verkehrs Rundschau

■ デュッセルドルフは、未来の交通に関する試験都市となる

DÜSSELDORF WIRD ZUM TESTFELD FÜR VERKEHR DER ZUKUNFT

新たな通信システムを通じ、延長 20 km の道路において7月から、信号およびその他の交通機器に対するデジタルな交通データが試験走行車両との間でやり取りされる。デュッセルドルフでは、未来の道路交通が試験的に行われる。プロジェクトでは、都市およびアウトバーン交通の一部において、自動化しネットワーク化された走行が実施される。20 km におよぶ道路において、7月から新しい通信システムを通じて、信号およびその他の交通機器に対し、試験走行車両によるデジタルの交通データが送受信されると、アーヘン自動車協会 (ika) が明らかにした。